



TITLE:

相續税ノ課税方法(一)

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

CITATION:

神戸, 正雄. 相續税ノ課税方法(一). 經濟論叢 1918, 7(5): 588-597

ISSUE DATE:

1918-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127459>

RIGHT:

相續税ノ課稅方法(二)

神 戸 正 雄

緒言 (一)本文ノ目的(二)説述ノ方法

第一段 相續税ノ課稅物件

其一 相續財産カ相續増價カ

其二 相續財産ノミカ贈與財産モカ

其三 全相續財産カ傍系相續財産ノミカ

其四 全動及不動産カ一部動産免除カ

其五 屬地主義カ屬人主義カ

第二段 相續税ノ課稅標準

其一 純價値計算

其二 沒收點

其三 免稅點

第三段 相續税ノ稅率

其一 累進方法

其二 稅率ノ高サ

第四段 相續税ノ收納方法

其一 納稅猶豫及宥恕

其二 印紙納稅

緒 言

相續税ノ根本問題ニツキテハ前二文ニ於テ略ボ盡シタカラ、茲ニハ課稅方法ノ細目ニ入ツテ研究シヤウト思フ。ソシテ之ニヨツテ前文ノ足ラサル所ヲ補足シヤウト考フル。而シテ其ノ之ヲ説クヤ凡ベテニ亘リニ應ノ説明ヲ與フルガ、特ニ異説ノアリ得ルモノニ就イテ詳シク之ヲ説クコトトシヤウ。

第一段 相續税ノ課税物件

其一 相續財産カ相續増價力

最普通ニ、其ハ學說デモ實例デモ、相續税トイヘバ相續財産ヲ其課税物件トスルコトニナツテ居ルガ、茲ニ或學者ハ此相續税ヲ改造シテ相續増價税トシヤウトイフ考ヲ懷イテ居ル。其ウナレバ或相續ニ際シ其相續財産價格ノ其被相續人ノ前相續時ニ於ル相續財産價格ニ對スル差増額ニ課税スルコトニナルカラ、普通ノ相續税ガ相續人ノ相續財産價格ヲ課税スルトハ異ツテ、被相續人ノ一部ノ財産ヲ物件トスルコトナリ、現ニ納税義務者トナル所ノ相續人ノ給付能力ヲ測定スルニハ適切ナラザルノ非難ヲ免レス。或ハ擬制ニ依ツテ被相續人ノ此場合ニ於ケル給付能力トイフモノヲ認ムルコトハ出來ル。然ウナレバ恰カモ夫ノ財産増價税ト同様ナル意味ヲ生ズルコトニナル。クレドモ斯カル擬制ヲ用キテ租税ヲ設クルヨリハ、寧ロ從來普通ナルカ如キ相續人ノ給付能力ヲ見テ課スル所ノ相續税ノ方ガ選ブベキデアラウ。(註二)

(註一) 此案ノ發案者ハでういつトイフ人デアル。彼ハ之ヲ辯護シテ曰ク、(1) 此税ハ夫ノ財産増價税ノ凡ヘテノ長所ヲ有ツ。
(2) 而モ此ニテハ相續税カ古キ時代ヨリ相續シ來ツタ財産ヲ斷エズ減少セシメテ行クトイフ非難ヲ避クルコトニナル。(3) 加之所得及財産税、或度マテハ財産増價税トモ異ツテ、勉強及貯蓄ノ課税デナイ。何トナレバ此カ勉強及節約ヲ爲シタル被相續人ヲ課税シナイデ、其人ノ死後、相續人ヲ課税スルコトニナルカラ(此點ニテハ相續税ノ長所ヲモツ)(4) 更ニ此税ハ其徵收ガ財産増價税ヨリモ技術上容易デアルト。要スルニ此税ハ相續税ト財産増價税トヲ結合シテ、其長所ヲ併セ、其短所ヲ抑エ
ルコトヲ得タモノトイフノデアル。

1) Dewitz, Erbwuchssteuer als Besitzsteuer. S. 46. 47. 48.

其二 相續財産ノミカ贈與財産モカ

相續財産ニ課税スレバ、勢ヒ贈與ニモ課税スル。之ヲ相續ト同等ニ課税シナケレバナラナクナル。相續税ノ脱税ヲ防グ爲メニハ其ガ已ムヲ得ナイ(註二)。日本法デハ其ニツキ單ニ相續開始前一年内ノ分ノミニ相續税ヲ課スルコトニナル(註三)。其ニ類似ノ例モアルガ(註四)、其レデハ尙ホ不十分デアツテ、其ノ凡ベテヲ込メテ課税シテモ良イ。ノミナラズ、少クトモ未成年ニシテ營利能力ナキ小供ノ名義ニテ或財産ヲ買取り、以テ後日支拂フベキ相續税ヲ免レヤウトスルモノヲ抑ユル爲メ、斯カルモノヲモ贈與ト見テ矢張り相續税ヲ課スルコトトシテ良イ。處デ相續税ヲ脱センガ爲メニスル所ノ交通ハ獨リ贈與ノミナラズ、實ハ賣却ノ形ニテモ現ハルル。或ハ其被相續人が遺サウトスル相手タル人ニ相續スベキ財産ヲ賣却スルコトニ依リ、或ハ其兩人ノ關係ガ親族關係デ脱税ノ疑ヲ受ケ易キ場合ニハ、先ツ以テ被相續人ヨリ第三者ニ賣却シ置キ、後日ニ至テ第三者ヨリ相續人タルベキ者ニ、買戻ス形ニヨルコトガアル。此等ヲスベテ抑エヤウトスルト、贈與ノミナラズ賣却ヲモ相續ト同等ニ課税シナケレバナラナクナルガ、其レデハ餘リニ經濟交通ヲ妨グルコトガ甚シクナル(註五)。デ之ヲ探ルコトヲ得ナイ。デ此賣買ニツイテハ原則上此課税ヲ行フベキデハナク、唯ダ夫ノ相續税ヲ免レントシテ行ヒタリト認メラルル場合ニ、之ヲ課税シ且ツ脱法行爲トシテノ制裁ヲ嚴ニ行フベキモノデアル。

(註二) 相續税ノ脱税ヲ妨グ爲メニ贈與ニモ同等ノ課税ヲ爲スコトハ多クノ學者一致ス。例之、しえーらーハ曰ク。相續税ノ體系的及多岐的成形ノ下ニハ相續税ヲ生存者間ノ贈與ニ依ツテ脱スルコトノ屢々企テラルルコトが經驗ニヨリテ證セラルル

贈與税之ヲ補充税トスルコトハ避クルコトヲ得ナイト。之ト略ボ同様ノコトヲめんつ、へつける、えーべるぐ、ぼるぐと、こさ、しえーる等唱フ。わぐな一モ之ヲ説クニ、彼ハ此贈與ニテハ厄分ナル而モ不十分ナル監督ヲ避クル爲メニ、相續税ヨリモ高キ價值ニテ、免税点ヲ與エヨトイヒ、ふなつけ亦タ齊シク贈與ニ相續税ヲ課スルノ必要ヲ認ムルモ、唯ダ不動産ニ於ケルガ如ク凡ヘテノ贈與ニツキ公示法ガ規定サレナイ以上ハ、贈與ニヨル相續税ノ脱税ヲ妨グルコトハ不可能ナルトイフ更ラニしえふれ一ハ同シク夫ノ必要ヲ認メ、而モ少クトモ親族間ノ贈與ニハ贈與税ガ相續税ノ必要ナル補佐物デアルガ、他ノ贈與ハ免税トスルノ外ナイテアラウトイヒ、ほんめるすはいむハ脱税ノ危險ハ贈與税ニ、相續税ヨリモ一層大イ。贈與ニテハ往々ニシテ内部且ツ暗黙ノ出来事ニ關スル。之ヲ公ニスルコトハ當事者ニ苦痛ナルノミナラズ、恰モ有害ナルベシトイフテ孰レモ實行上ノ困難ヲ語ツテ居ル。²⁾

尙ホ此贈與ヲ相續ト同等ニ扱フ以上ハ、嫁資、親ガ子ノ營業資本トシテ與フルモノノ如キモ當然之ニ含ムヘキデアル。現ニわぐな一ハ最近親者間即チ直系尊屬ヨリ直系卑屬ヘノ贈與、隨ツテ特ニ嫁資等モ免税スルヲ得ズトイフテ居ル。尤モ煥國法ニ關スルげーべるノ説明ニ依ルト、被相續人ガ其生存時ニ其娘又ハ孫娘ニ嫁資トシテ、其息子又ハ孫息ニ營業創始準備金トシテ又ハ直接ニ官職就任ノ爲メニ又ハ常ニ營業ノ爲メニ與エラレ又ヘ丁年ノ息子ノ負債ノ支拂ノ爲メニ使用シタモノハ相續財産ノ中ニ入ラレナイトイフコトデアル。³⁾

(註三) 税法三條ノ二、

(註四) げーべるノ煥國法ノ説明ニ依ルト、被相續人ガ死ノ前ニ爲シタル贈與ニ關シテハ、此ガ其死ノ前二箇月以内ニ、相續移轉ノ考ニテ行ヘレ、之ニ對シテ生存者間ノ贈與ノ手数料ノ拂ハレザリシ場合ノミ相續財産ニ入ルヘキデアルト。⁴⁾

(註五) ばすてーぶるハ贈與ト賣却トガ相續ト同率ニテ課税セラルルテナケレバ、生存者間ノ移轉ニヨル強キ誘惑(脱税ノ)ガアルトイヒ、更ニ進ンデ包括的ナル凡ヘテノ移轉ノ税ニヨツテ此相續税ヲ守ラツトスル企ハ、商業取引ニハ余リニ有害デアルトイフテ居ル。⁵⁾

論說 相續税ノ課税方法(一)

2) Schöler, Die Reichserbschaftssteuer. S. 129. Mentz, Der Gegenstand der Erbschaftssteuer. S. 33. Heckel, Lehrbuch der Fw. I. S. 425. Eheberg, Fw. 9. Aufl. S. 316. Borcht, Fw. S. 161. Cossa, Grundriss d. Fw. S. 101. Scheel, Erbschaftssteuer und Erbschaftsreform. S. 78. Wagner, Fw. 2. Aufl. II. S. 592. 593. Vocke, Grundzüge d. Fw. S. 129. Schöler, Fw. S. 129.

其三 全相續財産カ傍系相續財産ノミカ

相續財産ニ課税スルニ就キテ直系傍系トモニ之ヲ課スルカ、單ニ傍系ノミニ課スルカガ問題デアルガ、此ハ多クノ國ノ例ノ通り(註六)、前者ヲ選ブベキデアル。直系ノ場合ニモ相續人ニ於テ彼ガ其相續財産ニツキ自由處分權ヲ得タダケニ於テ、其ヲ而モ不勞又ハ無償的ニ、偶然又ハ僥倖的ニ得タダケニ於テ給付能力ヲ生ジタリト見得ルカラデアル(註七)。假令税率其他ニテ之ヲ宥恕スルトモ兎モ角之ニ課税スルコトダケハシタ方ガ良イ。

(註六) 獨逸帝國ハ直系卑屬ト配偶者トチ免税スルガ、英、佛、奧、伊、瑞、西ノ多クノ州等ハ之ヲモ課税ス。⁴⁾ 日本亦然リ。米國ニテハあらばま、ころんびあ、ふるりだ、みすしび、にゆーめきしこ、さうすかりな、以外ノ凡ベテノ州ニ相續税カ存スルガ其中、でらうえしあ、あいなわ、かんさす、めりーらんじ、みぞりー、にゆーはんぶしあいあ、なはいな、べんしるるべにあてきさす、ばーもんそ、ばーじにあデハ傍系相續ノミノ税デアリ、其他ノ州デハ直系傍系トモニ相續税カ行ハル。⁵⁾

尙ホ直傍系ノ意味ニツキばんくらふさハ米國ノニツギ説明シテ曰ク、其直系相續トハ通例、父母、夫婦、小供(養子サフクム)及其直系卑屬ヲ意味スル。武州デハ兄弟姉妹及小供ノ妻及、娘ノ夫サフクムト。⁶⁾

(註七) わぐな一モ最近キ親等ノ相續人ニモ原則上、相續税ヲ課スベシトイヒ、えーべろひハ相續税ハ其監督上ノ效果ノ爲メニ、凡ヘテノ相續人ニ及ブベキ要求ガ定メラレナケレバナラヌ。此ガ租税ノ一般課税ノ原則ニ適フトイフデ、之ヲ贊ス。⁷⁾

其四 全動及不動産カ一部動産免除カ

相續税ヲ課スルトスレバ動産不動産ノ凡ヘテニ課税スベキデ(註八)。一部動産ヲ免除スヘキデナイ。勿論其動産ガ脱税サレ易イコトハ認メナケレバナラヌガ(註九)、其ニシテモ相續税ヲ課スベキ所以ノ相續人ノ給付能力ガ此動産ニツキテモ存スル以上ハ、之ヲ公平課税上免除スベキモノデハ

4) Goebel, ebenda.

5) Bastable, Public finance. 3rd. p. 592, 593.

6) Hommelshelm, a. a. O. S. 80, 81.

ナイ。特に動産ハ、兎角他ノ税ヲ免ルル傾ガ不動産ヨリモ多ク、其理合セトシテモムシロ此ニ相續税ヲ課スル必要ガアリ(註一〇)、又之ヲ課税スルノニハ相續トイフガ如キ時機ヲ捕フル相續税ガ、日常ニ課税スル財産税ヨリモ便利トイフコトモアル(註一一)。然ルニ我邦ニ於テ税法ニテハ動産不動産及其他ノ財産權ニ課税スルコトシツツ(註一二)、大藏大臣ノ訓令ニヨリテ動産中、家賃什器書籍家具其他日用器等ヲ義務者ガ申告セザル以上強イテ課税スルニ及バズトシタノハ(註一三)、甚ダ不都合デアル。第一凡ヘテ其ヲ免税スルトイフノナラバマダ公平デアルガ、義務者ガ申告スレバ課税シ、申告セザレバ免税スルトイフノハ不公平デアル。其結果正直ナル者ハ重課セラレ、狡猾ナル者ハ輕課セラルルコトトナルハ可ケナイ。第二ニ此種ノ物ガ一定小價格内ノモノナル場合ニ免税スルダケナラバ、其ハ他ニ例モアリ(註一四)、道理トシテモ免税點ヲ認メ且ツ此等ノ物ガ直接收益ヲ生セザルノ理由ニヨリ若干他ノ物ヨリモ此免税點ヲ高クスルトイフコトデ認メラルガ、日本ノ制度ノ如ク其價ガ幾百萬圓以上デモ此種ノ物が免税サルトイフノハ洵ニ以テ不都合デアル。第三ニ此等ノ物ニハ奢侈品ト認ムベキモノガ多クアル。家賃什器ノ中ニハ勿論ノコト、家具日用品ノ中ニモ多クアル。其ヲ免税スルハ不可デアル。別ニ奢侈品アレバマダシモデアルガ、其モナイノニ、之ヲ相續税ノ處デモ免ズルノハ餘リニ奢侈的消費ヲ課税上寛大ニシ過ギテ居ル。日本ノ現状ニ顧ミ甚ダ當ヲ得ナイ。本來給付能力大ナル奢侈的消費、經濟上社會上ニモ抑制ノ勸メラルル奢侈的消費ニハムシロ機會アレバ課税スルノガ選ムヘキデアルノニ、此ヲ態々免除スルナドハ太タ以テ宜シクナイ。第四ニ此等ノ物ハ收益ヲ生ゼヌカラ此ニ課税スルト、納税ノ爲メニ實

却シナクテハナラヌヤウニナツテ課税原則ニモ反スルコトトナルヤウデアルガ、實ノ處、此種ノ物ノ少カラザルモノガ其價値ノ自然騰貴ニヨリテ收益ヲ生ジツツアル所デ、持主ノ處ニテ一方ニ一ノ奢侈的享樂品トサレツツ、他方ニ收益財産トセラレテ居ル。其ガ帳簿上ノ收益ヲ見テ喜バルルコトニナルカ、又ハ間々賣却セラレテ收益ヲ現實ニスルコトモアル。斯カル物ヲ相續ノ際ニ免税スルノハ他ノ收益財産トノ鈎合上モ不都合デアル。第五ニハ夫ノ動産ノ中ニハ收益財産トイフ程デナク而モ奢侈品トイフ程デモナイモノガアルヤウデアルガ、其レトテモ夫ノ免税點ヲ超ユル以上ハ、其ハ矢張り先ヅ奢侈的ノ物ト認ムルノ外ナク、之ヲ持ツ人ハ其ヲ持ツダケノ覺悟ヲ要シ、或人ガ其ヲ其相續人ニ持續セシメヤウトスルナラバ、平生カラ其ニ對スル相續税ニ當ルモノヲ準備スルコトヲ努ムベキモノデアル。相續人モ之ヲ持續シヤウト思ヘバ一時借金シテ其相續税ヲ拂ヒ、爾後奮勵努力シテ此借金ヲ返スコトトスレバ良イ。其ガ出來ナイヤウナラバ其税ヲ拂フ爲メニ之ヲ賣却スルコトトナツテモ仕方ガナイ。相續人トシテハ之ヲ失フコトニナルデアラウガ、社會全體カライヘバ、何人カガ之ヲ買取ツテ維持スルコトトナル。何人カノ所得ニヨツテ此代價ガ拂ハレ、隨テ夫ノ税ガ拂ハルルコトトモナル。之ガ爲メニ別ニ國民經濟上不利トハナラズ、各人ヲシテモ亦タ自然一層ノ努力ヲ爲サシムルコトトナル。第六ニハ特ニ家寶ニ屬スル物ハ日本ノ如ク家族制度ガ社會ノ基礎トナツテ居ル處デハ、之ヲ宥恕シテ其維持保存ヲ計ラシムルコトヲ要スルモノノ如クデアルガ、其トテモ其全部ガ家族制ノ維持ノ爲メニ大切ナルモノカハ疑ハシイ。恐ラク其必要ナルハ夫ノ物ノ一部ニ止マルデアラウ。斯カル少數ノ物ナラバ、之ニ對スル相續税ノ支

拂トイフコトガ被相續人又ハ相續人ノ努力ニヨツテ出來ナイコトハアルマイ。其ガ出來ナイヤウナラバ、其ハ其人々ノ不肖ナルガ爲メデ、不肖ノ子孫デハ到底祖先ノ後ヲ完フスルコトノ出來ヌノハ致方ナキコトデアル。其マデ強テ保護スルニ及ブマイ。若モ強イテ之ヲ保護スルトシテモ、其ハ極ク限ラレタル部分ニ止ムベク、其免稅サルル家實ハ他方ニ世襲的ノモノトシテ全ク賣却スベカラザルコトトシナケレバナラス。其レナラバ相續稅免除ノ理由ガ立ツガ、賣却ノ方ハ自由トシテ置イテ、稅ヲ納ムル段ニナルト、此ハ家實ダトイツテ稅ヲ免レヤウトスルノハ不都合千萬デアル。近頃頻々トシテ華族ノ家實ノ賣出ガ傳エラルルガ、其家實ハ果シテ相續稅ヲ拂ヒタルモノナリヤ否ヤ。若此稅ガ拂ハレテ居ナカツタナラバ、其ハ彼等華族ノ不道義ヲ責メナケレバナラス。否ナ進ンデムシロ之ヲ認ムル國家ノ制度ノ不當ヲ咎メナケレバナラス。

(註八) ふなつけハ曰ク、動產ト不動產トナ同一ニ取扱フコトカ公正ノ避クヘカラザル要求デアルト。へつける、えーべろひ、ばんくろふど等亦、此稅カ凡ベテノ財產、隨テ動產及不動產ニ及ブベキコトヲ認ム。¹⁰⁾

尙ホゲーべるガ英國ノ相續稅ノ物件ナ列記スル所ニヨルト、(一)現金、(二)有價證券、(三)貯金、(四)債權、(五)寶石、(六)衣類、(七)住居設備、(八)雜多ナル動產、(九)不動產(附屬物ト共ニ)トアル。¹¹⁾

(註九) ばすてーぶる曰ク、最近五十年間ニ發達シタル有價證券ノ大増加、其ノ多クハ國際的ナルモノガ脫稅ノ最便利ナル方ヲ供スルト。¹²⁾

(註一〇) しえふれーハ曰ク、動產ヲ不動產ヨリモ輕ク課稅スル理由ハナイ。ムシロ反對ガ必要デアル。何トナレバ動產ハ不動產ヨリモ一層多ク、直接稅及消費稅ヲ脫スルコトニナルカラト。ソシテうえすこニ依ルト、恰モ此理由ヨリ紐育議會ガ動產ノミニテ而モ直系ノ相續稅ヲ提議シタルコトガアル。¹³⁾

10) Vocke, Die Abgaben, Auflagen und die Steuer. S. 621. Heckel, a. a. O. S. 424. Eheberg, a. a. O. S. 314. Bancroft, l. c. p. 4.
11) Goebel, a. a. O. S. 6.
12) Bastable, l. c. p. 592-3.
13) Schäffle, a. a. O. S. 424. West, The inheritance tax, p. 221.

(註一) し大ふれーハ曰ク、動産ノ捕提ノ爲メニハ、相續税ノ方ガ財産税ヨリモ勝ルト。¹⁴⁾

(註二) 税法二條

(註三) 明治三八年一月相續税ニ關スル大藏大臣訓示、四條、相續税法第二條ニ掲クル相續財産ハ凡ヘテ課税價格ニ算入スヘキモノナリト雖モ、動産中、家寶、什器、書籍、家具、其他日用器等ノ如キ營利ノ目的ヲ以テ所有スルモノニ非スシテ、直接所得ヲ生ゼザルモノハ相續財産目錄中ニ掲記シアラサルモ、強テ之ヲ掲記セシメテ課税價格ニ算入スルニ及バザルモノトス。

(註四) 獨逸ノ一九〇六年ノ相續税ニテハ、特ニ兄弟、甥姪、舅姑、婿嫁、繼父母、繼子ニツキ、衣類、床、下着、家庭及料理用具ニシテ、此ガ營業用トナラズ廢却ニモ定メラレズ、此種ノ物ノ取得價值ガ五千馬克ヲ超ヘザルトキハ免税セラル。¹⁵⁾

其 五 屬地主義カ屬人主義カ

相續財産ノ課税ニツキ屬地主義ヲ探ルカ屬人主義ヲ探ルカハ國ニ依ツテ異リ(註一五)、又學說モ區々デアル。此税ガ相續人ノ給付能力ヲ見ル所カライヘバ、相續人ノ住所ニ據ルベキカ如クデアルガ、實際此税ニ於テ屬人主義トイツテモ其ハ被相續人ノ住所カラ見ル。其死ノ爲メニ開始サルル相續トイフコトカラ見ル。其意味ノ屬人主義ト財産所在地ヲ見ルノ屬地主義ト何レヲ探ルカトイヘバ、ムシロ日本法ノ如ク(註一六)屬地主義ニ依ツタ方ガ、取締上又課税上便利デアル(註一七)。尤モ屬人主義モ動産ノ如ク移動シ易ク被相續人ノ人ニ伴フ傾アルモノニ在ツテハ取締上却テ便利トモイヘヤウガ、實際此場合ニハ屬地主義ヲトルモ屬人主義ヲトルモ多クハ同一ニ歸着シヤウ。斯クテ不動産ニハ屬地主義ヲ、動産ニハ屬人主義ヲススモアルガ(註一八)、併シ必スシモ此ヲ探ラナケレバナラヌ程ノモノデハナイ。現在ノ日本法ノ儘デモ大シテ差支ハナイ。

14) Schäffle, a. a. O. S. 421.

15) Heinrich, Die Erbschaft und ihre Besteuerung. S. 3. 19. 25.

(註一五) 此ニ關スル各國ノ主義ヲ分類スレバ、¹⁶⁾

(A) 屬人主義(被相続人ノ人格、其國籍又ハ住處ニ依ルモノ)

(い) 純然タルモノ——白、丁、ろくせんぶるぐ、蘭、蘭領印度、諸威、甸、

(ろ) 動産ノミニツキ此ニヨルモノ——獨、英、佛、墨、埃、るめにあ、瑞典、瑞西、西班牙、

(B) 屬地主義(相続財産ノ所在ニヨルモノ)

(い) 純然タルモノ——米、ぶらじる、希、伊、日、露、

(ろ) 不動産ノミニツキ此ニヨルモノ——(A)ノろニ同シ

(註一六) 税法一條、二條、

(註一七) しえゝるハ曰ク、凡ベテノ内國ニ在ル相続財産ノ課税カ理論上及實際上勸ムヘキモノデアル。内國人ハ通例其財産

ヲ内國ニテ取得シ、且ツ相續セシメタ。又内國ニ企業等ヲ有ツ。此關係ニ於テ外國人モ内國人ト見ラルルヲ得ル。此ヨリシテ實際ノ不便ハ生ジナイ。監督モ此ニ於テ最確實デアラサト。¹⁷⁾

(註一八) まいれんハ曰ク、不動産ニハ課税サルル物件ノ權利ガ標準トナル。第一ニ當該國ノ土地ト密接ニ關係シタル土地ニ於テ、周圍ノ土地ニ行ハルル法律ト異リタルモノヲ適用スルコトハ不自然デアラウ。一國ノ全地域ノ統一アル處理上許スコトヲ得ヌ。第二ニ此考ガ少數國ヲ除キテハ、殆ント凡ヘテノ歐及重ナル歐外ノ國ノ立法ニ行ハレ、實ニ相続税ニ關シテノミナラズ、多クノ他ノ領域ニ關シテモデアル。例之、一國ニ在ル外國公使ハ通外ノ直接税ヲ免セラルルケレトモ地租丈ケハ通例課セラルル。動産ニハ屬人主義ガ標準デナケレバナラヌ。何トナレバ其場所ヲ動カスコトノ容易ナル爲メニ、及此ト關聯シタル存在期間ノ不規則ノ爲メニ、動産ノ屬地主義ガ適當シナイカラ。屬人主義ノ適用ニ於テハ國籍デハナクテ、専ラ最後ノ住所ガ決スヘキデアル。正常ノ事情ヲ假定シテ、國家ノ保護ハ凡ヘテノ其區域ニ住スル者ニ及ブ。其國籍ヲ問ハズ、彼等凡テノ住民ニ、其慈善設備、教育設備、交通便利等ガ及ブ。外國人ノ内國在住者ハ多少本國トノ關係ヲ失フ。後者ノ利益ハ殆ンド全ク之ヲ受ケナイ。ソシテ其住スル外國ニ愈々多ク利害ヲモツ。此國ニ於テ夫ノ税ヲ課スルコトガ公平デアラサト。しえふれー、ふいすちんぐモ亦不動産ニ屬地主義、動産ニハ屬人主義ヲ當然ト見ル。¹⁸⁾

論 說

相続税ノ課税方法(一)

16) Meynen, Die Erbschaftssteuer in internationalen Rechte. S. 36-46.
17) Scheel, a. a. O. S. 68-9.
18) Meynen, a. a. O. S. 52-3. Schäffle, a. a. O. S. 423. Fuisting, Grundzüge d. Stenerlehre. S. 68-9